

テーマ 便潜血陽性例の検討

実施者 医師 多田 尚子

対象 2018年1月～2021年12月に当院の人間ドックで便潜血反応検査を受けた19,333例(男性12,255例、女性7,078例)、平均年齢46.9歳(±14.9)を対象とした。

方法 便潜血陽性例で大腸内視鏡検査を受けられた方の結果や、大腸がんや潰瘍性大腸炎が発見された症例などを検討した。

結果 便潜血陽性は818人で男性549人、女性269人。便潜血陽性率は全体で4.2%、男性4.5%、女性3.8%とやや男性に多かった。

精密検査で受けられた大腸内視鏡検査の結果は、腺腫(大腸がんの前がん病変になりうるポリープ)165例36.6%で、非腺腫39例8.8%でそれぞれ発見率は0.84%と0.20%だった。

大腸がんは、11例2.5%で男性8例、女性3例と男性に多く、発見率は0.057%だった。早期がんが7例、進行がんが4例と早期がんが多かったが、肝臓に転移も認める進行がんも見付かった。

経年で繰り返し便潜血陽性となっている方で進行がんが発見されているケースがあるので、そのような受診者にはより積極的に大腸内視鏡検査を勧める必要があると思われた。

潰瘍性大腸炎は、8例1.8%で発見率が0.041%だった。治療に至った症例は4例でその他は軽症のため経過観察となった。

当会の人間ドック受診者は比較的若い方が多く24～80歳までの方がおり、平均46.9歳であった。大腸がん11例は39～70歳の平均54歳で認め、腺腫は34～80歳の平均49.7歳で認められた。

年齢の比較的若い方でも便潜血陽性例には積極的に大腸内視鏡検査を勧める事が重要であると考えられた。

	大腸内視鏡検査数	ポリープ/腺腫	非腺腫	大腸がん	潰瘍性大腸炎	その他
精密検査数	445	167(37.5%)	39(8.8%)	11(2.5%)	8(1.8%)	2(0.4%)
男性	301	118	24	8	7	2
女性	144	49	15	3	1	0
発見率	-	0.86%	0.20%	0.06%	0.04%	0.02%